

## II 調査結果の概要

### 1. 発育状態

#### (1)身長・体重の平均値

##### ①身長

男子は、6、7、9～11歳で前年度の同年齢より高くなり、5、8、12～14、16、17歳では低くなり、15歳は同値であった。女子は、6、9、10、12～14、16歳で前年度の同年齢より高くなり、5、7、11、15、17歳では低くなり、8歳は同値であった。10、11歳では、女子が男子を上回っている。

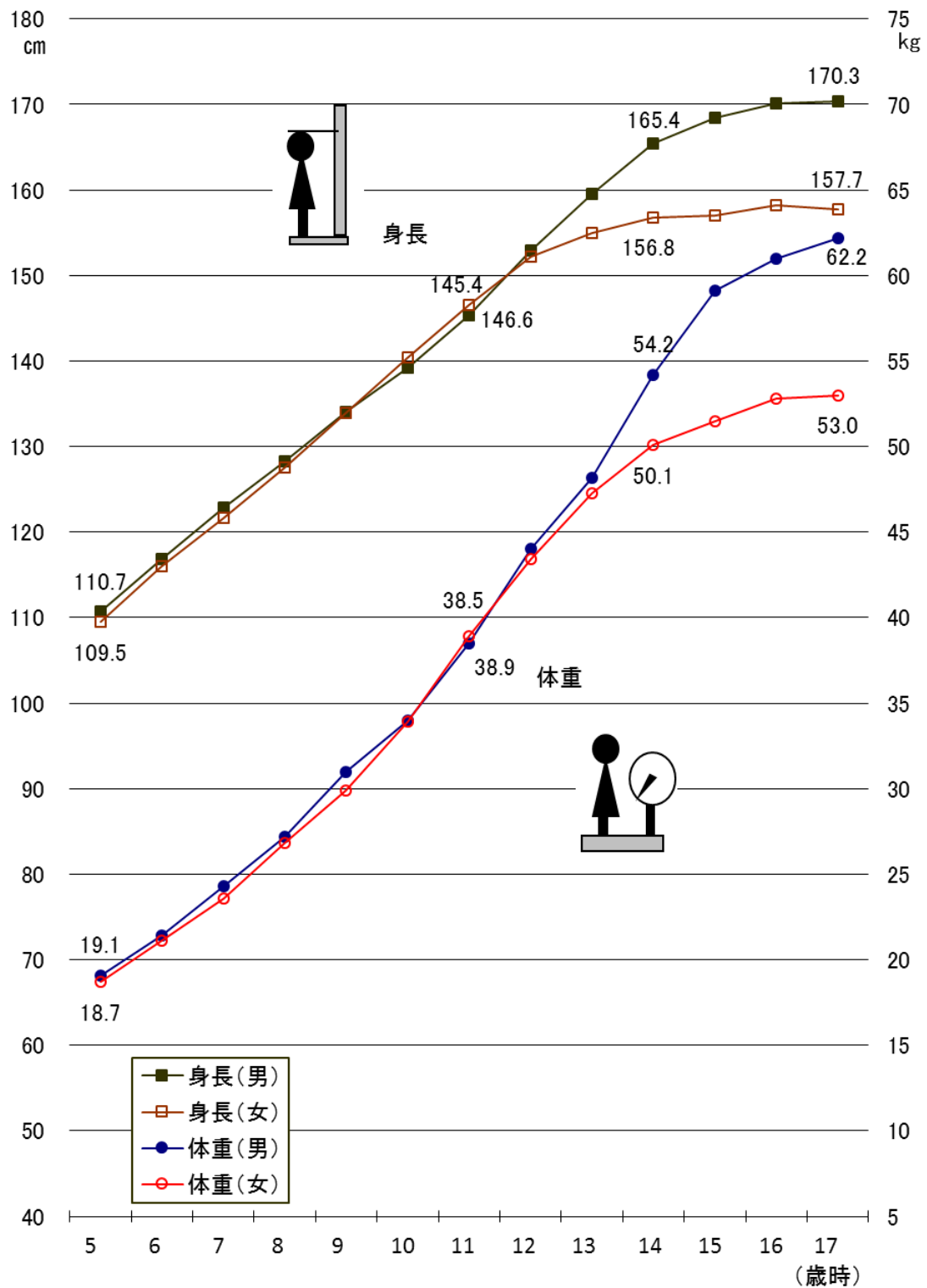
##### ②体重

男子は、5、9、11、12、14～16歳で前年度の同年齢より増加し、6、7、10、13歳では減少し、8、17歳は同値であった。女子は、6、9、13、15～17歳で前年度の同年齢より増加し、8、10～12歳では減少し、5、7、14歳は同値であった。11歳では、女子が男子を上回っている。

表1 身長・体重の千葉県平均値

区分			身長(cm)			体重(kg)		
			平成 29年度①	平成 28年度②	差 ①－②	平成 29年度③	平成 28年度④	差 ③－④
男	幼稚園	5歳	110.7	110.8	△ 0.1	19.1	19.0	0.1
	小学校	6	116.8	116.6	0.2	21.4	21.5	△ 0.1
		7	122.9	122.8	0.1	24.3	24.4	△ 0.1
		8	128.3	128.4	△ 0.1	27.2	27.2	0.0
		9	134.1	134.0	0.1	31.0	30.7	0.3
		10	139.2	139.1	0.1	34.0	34.1	△ 0.1
		11	145.4	145.0	0.4	38.5	38.2	0.3
	中学校	12	152.9	153.0	△ 0.1	44.0	43.6	0.4
		13	159.5	160.0	△ 0.5	48.2	48.5	△ 0.3
		14	165.4	165.9	△ 0.5	54.2	53.8	0.4
	高等学校	15	168.4	168.4	0.0	59.1	58.9	0.2
		16	170.1	170.3	△ 0.2	61.0	60.3	0.7
		17	170.3	170.5	△ 0.2	62.2	62.2	0.0
女	幼稚園	5歳	109.5	109.8	△ 0.3	18.7	18.7	0.0
	小学校	6	116.0	115.8	0.2	21.1	21.0	0.1
		7	121.7	122.2	△ 0.5	23.6	23.6	0.0
		8	127.6	127.6	0.0	26.8	26.9	△ 0.1
		9	133.9	133.6	0.3	29.9	29.5	0.4
		10	140.4	140.1	0.3	33.9	34.2	△ 0.3
		11	146.6	147.2	△ 0.6	38.9	39.3	△ 0.4
	中学校	12	152.2	152.0	0.2	43.4	43.7	△ 0.3
		13	155.0	154.8	0.2	47.3	46.6	0.7
		14	156.8	156.7	0.1	50.1	50.1	0.0
	高等学校	15	157.0	157.4	△ 0.4	51.5	51.3	0.2
		16	158.2	157.8	0.4	52.8	52.4	0.4
		17	157.7	158.5	△ 0.8	53.0	52.9	0.1

図1 体位の性別比較(平成29年度千葉県)



(注) 幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の最終学年の年齢についてのみ数値を記載した。

(2)親の世代（30年前：昭和62年度）との比較

①身長

男子は、5～7、17歳で親の世代を下回り、8歳では同値で、他の年齢では親の世代を上回っており、12歳で最も差が大きかった。女子は、5～8、15、17歳で親の世代を下回ったが、他の年齢では親の世代を上回っており、10歳で最も差が大きかった。

②体重

男子は、5、7、15歳で親の世代を下回り、6、8、17歳では同値で、他の年齢では親の世代を上回っており、12歳で最も差が大きかった。女子は、5、8、12、13、15歳で親の世代を下回り、7歳では同値で、他の年齢では親の世代を上回っており、15、16歳で最も差が大きかった。

表2 身長・体重の30年前との比較

区分			身長(cm)			体重(kg)		
			平成 29年度①	昭和 62年度②	差 ①-②	平成 29年度③	昭和 62年度④	差 ③-④
男	幼稚園	5歳	110.7	111.2	△ 0.5	19.1	19.6	△ 0.5
		小学校	6	116.8	117.0	△ 0.2	21.4	21.4
	7		122.9	123.1	△ 0.2	24.3	24.4	△ 0.1
	8		128.3	128.3	0.0	27.2	27.2	0.0
	9		134.1	133.6	0.5	31.0	30.1	0.9
	10		139.2	138.4	0.8	34.0	33.4	0.6
	11		145.4	144.4	1.0	38.5	37.7	0.8
	中学校	12	152.9	150.9	2.0	44.0	42.7	1.3
		13	159.5	158.4	1.1	48.2	47.8	0.4
		14	165.4	164.1	1.3	54.2	53.2	1.0
	高等学校	15	168.4	167.5	0.9	59.1	59.4	△ 0.3
		16	170.1	169.2	0.9	61.0	60.1	0.9
		17	170.3	170.6	△ 0.3	62.2	62.2	0.0
女	幼稚園	5歳	109.5	110.0	△ 0.5	18.7	19.0	△ 0.3
		小学校	6	116.0	116.2	△ 0.2	21.1	21.0
	7		121.7	122.1	△ 0.4	23.6	23.6	0.0
	8		127.6	127.8	△ 0.2	26.8	26.9	△ 0.1
	9		133.9	133.0	0.9	29.9	29.4	0.5
	10		140.4	139.1	1.3	33.9	33.7	0.2
	11		146.6	145.9	0.7	38.9	38.6	0.3
	中学校	12	152.2	151.5	0.7	43.4	43.7	△ 0.3
		13	155.0	154.9	0.1	47.3	47.5	△ 0.2
		14	156.8	156.6	0.2	50.1	49.9	0.2
	高等学校	15	157.0	157.3	△ 0.3	51.5	52.1	△ 0.6
		16	158.2	157.4	0.8	52.8	52.2	0.6
		17	157.7	157.9	△ 0.2	53.0	52.0	1.0

(3)年間発育量（17歳：平成11年度生まれ）

①身長

男子では、11歳時で7.3 cmと最大の発育量を示している。

女子では、9歳時で7.7 cmと最大の発育量を示している。

最大発育量を示す年齢は、女子は男子に比べ2歳早くなっている。

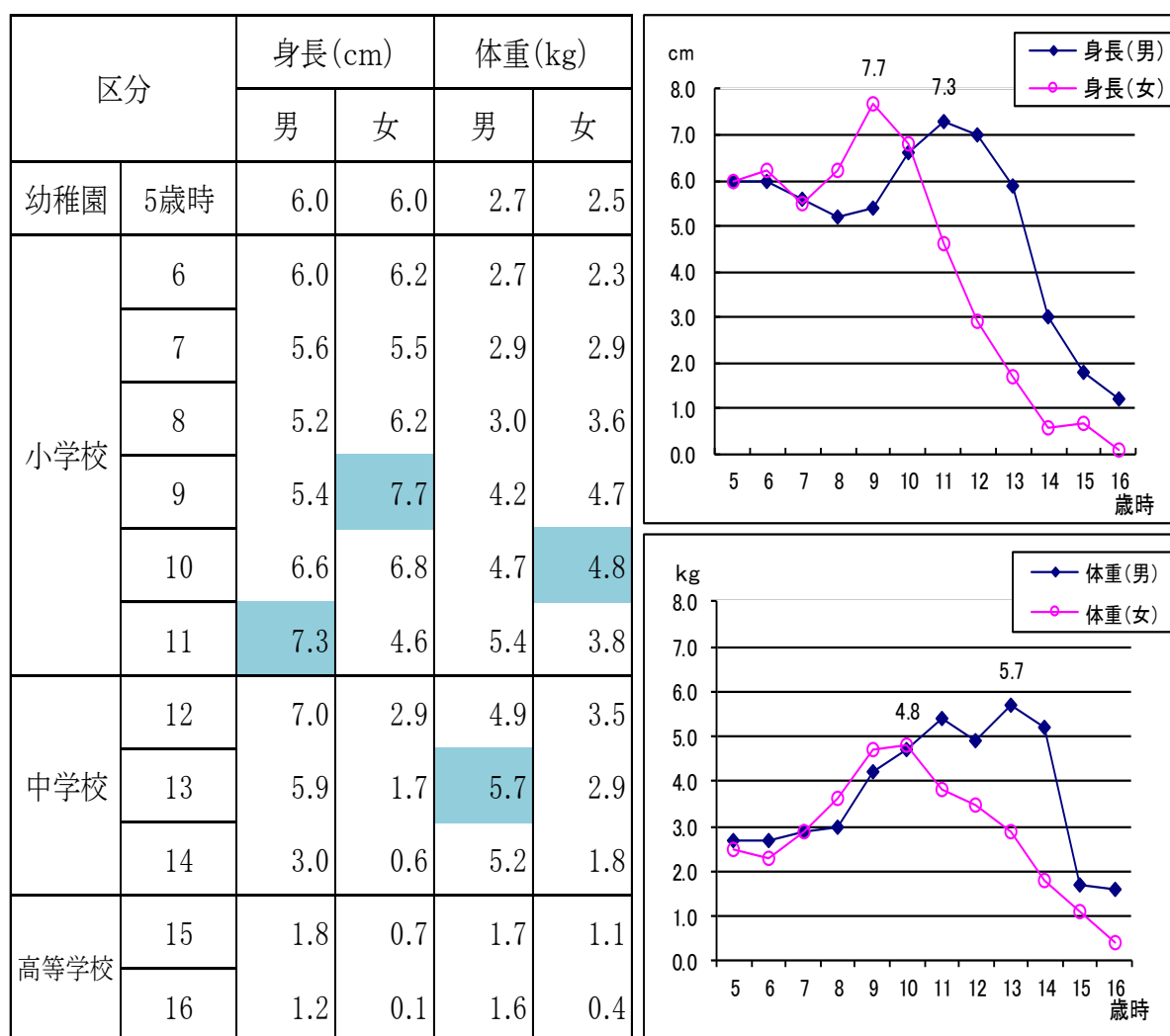
②体重

男子では、13歳時で、5.7 kgと最大の発育量を示している。

女子では、10歳時で、4.8 kgと最大の発育量を示している。

最大発育量を示す年齢は、女子は男子に比べ3歳早くなっている。

表3 17歳（平成11年度生まれ）の発育量



- (注)1. 年間発育量とは、例えば、17歳（平成11年度生まれ）の「5歳時」の年間発育量は、平成18年度調査6歳の者の身長から平成17年度調査5歳の者の身長を引いた数値である。
2. 網掛け部分は、最大の年間発育量を示す。

(4)全国平均値との比較

①身長

男子は、13、17歳で全国平均値を下回り、他の年齢では上回っている。女子は、11、15、17歳で全国平均値を下回り、他の年齢では上回っている。

②体重

男子は、10、13、17歳で全国平均値を下回り、6、8、12歳は同値、他の年齢では上回っている。女子は、10～12、15歳で全国平均値を下回り、9、17歳は同値、他の年齢では上回っている。

表4 身長・体重の全国平均値との比較

区分		身長(cm)			体重(kg)			
		千葉県①	全国②	差①-②	千葉県③	全国④	差③-④	
男	幼稚園	5歳	110.7	110.3	0.4	19.1	18.9	0.2
		小学校	6	116.8	116.5	0.3	21.4	21.4
	7		122.9	122.5	0.4	24.3	24.1	0.2
	8		128.3	128.2	0.1	27.2	27.2	0.0
	9		134.1	133.5	0.6	31.0	30.5	0.5
	10		139.2	139.0	0.2	34.0	34.2	△ 0.2
	11		145.4	145.0	0.4	38.5	38.2	0.3
	中学校	12	152.9	152.8	0.1	44.0	44.0	0.0
		13	159.5	160.0	△ 0.5	48.2	49.0	△ 0.8
		14	165.4	165.3	0.1	54.2	53.9	0.3
	高等学校	15	168.4	168.2	0.2	59.1	58.9	0.2
		16	170.1	169.9	0.2	61.0	60.6	0.4
		17	170.3	170.6	△ 0.3	62.2	62.6	△ 0.4
女	幼稚園	5歳	109.5	109.3	0.2	18.7	18.5	0.2
		小学校	6	116.0	115.7	0.3	21.1	21.0
	7		121.7	121.5	0.2	23.6	23.5	0.1
	8		127.6	127.3	0.3	26.8	26.4	0.4
	9		133.9	133.4	0.5	29.9	29.9	0.0
	10		140.4	140.1	0.3	33.9	34.0	△ 0.1
	11		146.6	146.7	△ 0.1	38.9	39.0	△ 0.1
	中学校	12	152.2	151.8	0.4	43.4	43.6	△ 0.2
		13	155.0	154.9	0.1	47.3	47.2	0.1
		14	156.8	156.5	0.3	50.1	50.0	0.1
	高等学校	15	157.0	157.1	△ 0.1	51.5	51.6	△ 0.1
		16	158.2	157.6	0.6	52.8	52.6	0.2
		17	157.7	157.8	△ 0.1	53.0	53.0	0.0

## 2. 健康状態

### (1) 疾病・異常の被患率等別状況

幼稚園、小学校及び高等学校では「むし歯（う歯）」の比率が最も高く、中学校では「裸眼視力 1.0 未満の者」の比率が最も高くなっている。

また、「むし歯（う歯）」「裸眼視力 1.0 未満の者」以外は、幼稚園では「耳疾患」、小学校、中学校及び高等学校では「鼻・副鼻腔疾患」の比率が最も高くなっている。

表 5 疾病・異常の被患率等別状況

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
60%以上～70%未満			裸眼視力1.0未満の者		
50～60					
40～50		むし歯(う歯)			
30～40	むし歯(う歯)	裸眼視力1.0未満の者	むし歯(う歯)	むし歯(う歯)	
20～30	裸眼視力1.0未満の者				
10～20		鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患		
1～10	8～10				
	6～8		歯・口腔のその他の疾病 異常 耳疾患	歯列・咬合 歯垢の状態 耳疾患	
	4～6	耳疾患 歯・口腔のその他の疾病 異常	ぜん息 眼の疾病・異常 その他の疾病・異常	歯肉の状態 その他の疾病・異常	
	2～4	歯列・咬合 ぜん息 アトピー性皮膚炎 鼻・副鼻腔疾患 その他の疾病・異常 眼の疾病・異常	歯列・咬合 アトピー性皮膚炎 歯垢の状態	歯・口腔のその他の疾病 異常 ぜん息 せき柱・胸郭・四肢の状態 アトピー性皮膚炎 蛋白検出の者	その他の疾病・異常 眼の疾病・異常 歯列・咬合 歯垢の状態 歯肉の状態 ぜん息 歯・口腔のその他の疾病 異常
	1～2		歯肉の状態 栄養状態 せき柱・胸郭・四肢の状態 心電図異常	心電図異常	蛋白検出の者 耳疾患 心電図異常 アトピー性皮膚炎 せき柱・胸郭・四肢の状態 栄養状態
0.1～1	0.5～1	その他の皮膚疾患 言語障害 歯垢の状態	蛋白検出の者 口腔咽喉頭疾患・異常 言語障害 心臓の疾病・異常 難聴	栄養状態 口腔咽喉頭疾患・異常 心臓の疾病・異常	顎関節 心臓の疾病・異常
	0.1～0.5	栄養状態 心臓の疾病・異常 蛋白検出の者 せき柱・胸郭・四肢の状態 顎関節 歯肉の状態	その他の皮膚疾患 腎臓疾患 尿糖検出の者	難聴 腎臓疾患 その他の皮膚疾患 顎関節 尿糖検出の者 言語障害	難聴 口腔咽喉頭疾患・異常 その他の皮膚疾患 腎臓疾患 尿糖検出の者
0.1%未満	腎臓疾患	顎関節		結核 言語障害	

(注) 1. 疾病・異常被患率の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満、回答校が1校以下又は疾病・異常被患率が100.00%のため統計数値を公表しない。

2. 「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、へんとう炎、音声言語異常のある者等である。
3. 「その他の歯・口腔疾患・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石等のある者である。
4. 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。
5. 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。
6. 「蛋白検出の者」とは、尿検査のうち、蛋白第1次検査の結果、尿中に蛋白が検出(陽性(+以上)又は擬陽性(±)と判定)された者である。
7. 「尿糖検出の者」とは、尿検査のうち、糖第1次検査の結果、尿中に糖が検出(陽性(+以上)と判定)された者である。

(2)主な疾病・異常等の推移及び全国平均値との比較

疾病・異常等のうち主なものについて、全国平均値との比較をみると

- ・「むし歯（う歯）」の比率は、全ての学校種別で全国平均値を下回った。
- ・「裸眼視力1.0未満の者」の比率は、幼稚園及び小学校で全国平均値を下回り、中学校では上回った。
- ・「鼻・副鼻腔疾患」の比率は、幼稚園は同値であり、小学校及び高等学校で全国平均値を下回り、中学校では上回った。
- ・「ぜん息」の比率は、全ての学校種別で全国平均値を上回った。
- ・「心電図異常」の比率は、小学校、中学校及び高等学校で全国平均値を下回った。
- ・「蛋白検出の者」の比率は、全ての学校種別で全国平均値を下回った。

表6 主な疾病・異常の全国平均値との比較

(単位:%)

区分	むし歯(う歯)			裸眼視力1.0未満の者			鼻・副鼻腔疾患			
	千葉県①	全国②	差①-②	千葉県③	全国④	差③-④	千葉県⑤	全国⑥	差⑤-⑥	
幼稚園	25年	34.0	39.5	△ 5.5	X	24.5	…	1.5	3.4	△ 1.9
	26年	41.7	38.5	3.2	X	26.5	…	1.5	3.1	△ 1.6
	27年	34.6	36.2	△ 1.6	X	26.8	…	2.1	3.6	△ 1.5
	28年	35.3	35.6	△ 0.3	X	27.9	…	2.8	3.6	△ 0.8
	<b>29年</b>	<b>34.6</b>	<b>35.5</b>	<b>△ 0.9</b>	<b>23.0</b>	<b>24.5</b>	<b>△ 1.5</b>	<b>2.9</b>	<b>2.9</b>	<b>0.0</b>
小学校	25年	53.3	54.1	△ 0.8	31.4	30.5	0.9	15.7	12.1	3.6
	26年	47.3	52.5	△ 5.2	30.8	30.2	0.6	11.6	12.3	△ 0.7
	27年	50.2	50.8	△ 0.6	30.2	31.0	△ 0.8	11.0	11.9	△ 0.9
	28年	47.0	48.9	△ 1.9	30.4	31.5	△ 1.1	12.3	12.9	△ 0.6
	<b>29年</b>	<b>43.3</b>	<b>47.1</b>	<b>△ 3.8</b>	<b>30.5</b>	<b>32.5</b>	<b>△ 2.0</b>	<b>11.5</b>	<b>12.8</b>	<b>△ 1.3</b>
中学校	25年	46.4	44.6	1.8	53.2	52.8	0.4	15.7	11.1	4.6
	26年	39.2	42.4	△ 3.2	51.9	53.0	△ 1.1	12.3	11.2	1.1
	27年	41.0	40.5	0.5	51.7	54.1	△ 2.4	11.3	10.6	0.7
	28年	35.1	37.5	△ 2.4	53.4	54.6	△ 1.2	12.9	11.5	1.4
	<b>29年</b>	<b>34.5</b>	<b>37.3</b>	<b>△ 2.8</b>	<b>60.3</b>	<b>56.3</b>	<b>4.0</b>	<b>14.9</b>	<b>11.3</b>	<b>3.6</b>
高等学校	25年	53.5	55.1	△ 1.6	70.8	65.8	5.0	13.3	8.7	4.6
	26年	46.8	53.1	△ 6.3	67.3	62.9	4.4	11.4	8.7	2.7
	27年	48.7	52.5	△ 3.8	X	63.8	…	10.5	7.3	3.2
	28年	47.4	49.2	△ 1.8	X	66.0	…	10.1	9.4	0.7
	<b>29年</b>	<b>38.6</b>	<b>47.3</b>	<b>△ 8.7</b>	<b>X</b>	<b>62.3</b>	<b>…</b>	<b>6.1</b>	<b>8.6</b>	<b>△ 2.5</b>

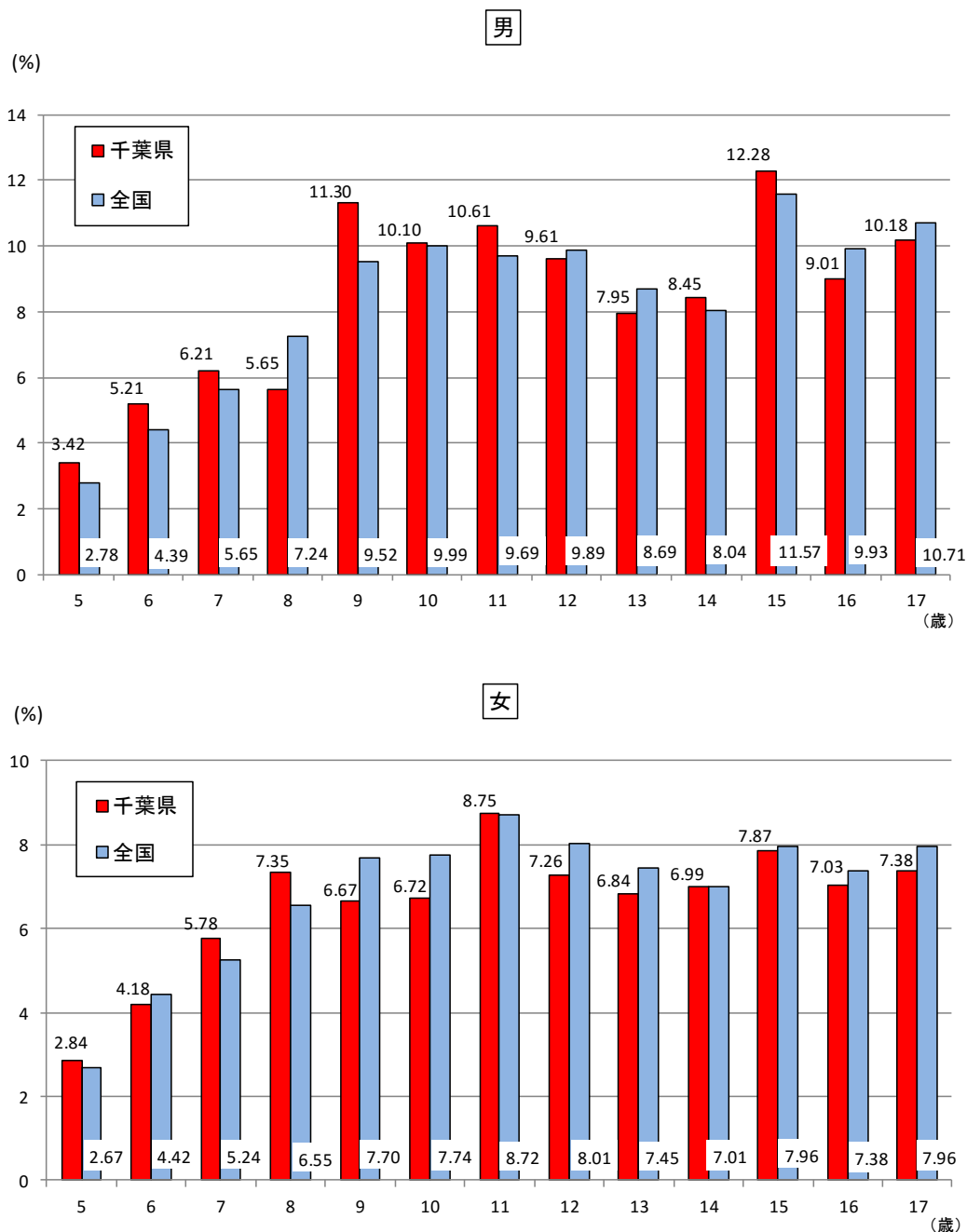
区分	ぜん息			心電図異常			蛋白検出の者			
	千葉県⑦	全国⑧	差⑦-⑧	千葉県⑨	全国⑩	差⑨-⑩	千葉県⑪	全国⑫	差⑪-⑫	
幼稚園	25年	3.0	2.1	0.9	…	…	…	0.3	0.9	△ 0.6
	26年	2.7	1.9	0.8	…	…	…	0.3	0.7	△ 0.4
	27年	2.6	2.1	0.5	…	…	…	0.4	0.8	△ 0.4
	28年	3.1	2.3	0.8	…	…	…	0.5	0.7	△ 0.2
	<b>29年</b>	<b>3.2</b>	<b>1.8</b>	<b>1.4</b>	<b>…</b>	<b>…</b>	<b>…</b>	<b>0.3</b>	<b>1.0</b>	<b>△ 0.7</b>
小学校	25年	7.6	4.2	3.4	1.7	2.6	△ 0.9	0.7	0.7	0.0
	26年	6.0	3.9	2.1	1.4	2.3	△ 0.9	0.7	0.8	△ 0.1
	27年	6.4	4.0	2.4	1.0	2.4	△ 1.4	0.8	0.8	0.0
	28年	5.4	3.7	1.7	0.9	2.4	△ 1.5	0.7	0.8	△ 0.1
	<b>29年</b>	<b>5.3</b>	<b>3.9</b>	<b>1.4</b>	<b>1.2</b>	<b>2.4</b>	<b>△ 1.2</b>	<b>0.8</b>	<b>0.9</b>	<b>△ 0.1</b>
中学校	25年	4.6	3.2	1.4	1.9	3.4	△ 1.5	2.1	2.5	△ 0.4
	26年	4.4	3.0	1.4	1.4	3.3	△ 1.9	2.0	3.0	△ 1.0
	27年	4.4	3.0	1.4	1.5	3.2	△ 1.7	1.9	2.9	△ 1.0
	28年	4.6	2.9	1.7	2.2	3.3	△ 1.1	2.3	2.6	△ 0.3
	<b>29年</b>	<b>3.4</b>	<b>2.7</b>	<b>0.7</b>	<b>1.9</b>	<b>3.4</b>	<b>△ 1.5</b>	<b>2.4</b>	<b>3.2</b>	<b>△ 0.8</b>
高等学校	25年	2.3	1.9	0.4	1.9	3.2	△ 1.3	2.0	2.7	△ 0.7
	26年	2.6	1.9	0.7	1.7	3.3	△ 1.6	1.9	3.1	△ 1.2
	27年	2.7	1.9	0.8	1.9	3.3	△ 1.4	1.6	3.0	△ 1.4
	28年	2.7	1.9	0.8	1.7	3.4	△ 1.7	1.6	3.3	△ 1.7
	<b>29年</b>	<b>2.5</b>	<b>1.9</b>	<b>0.6</b>	<b>1.6</b>	<b>3.3</b>	<b>△ 1.7</b>	<b>1.7</b>	<b>3.5</b>	<b>△ 1.8</b>

(注)心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。

### 3. 肥満傾向児の出現率

肥満傾向児の出現率は、男子は、5～7、9～11、14、15歳で全国平均値を上回ったが、他の年齢では全国平均値を下回った。女子は、5、7、8、11歳で全国平均値を上回ったが、他の年齢では全国平均値を下回った。

表7 肥満傾向児の出現率 全国平均との比較



(注) 1. 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

2. 肥満傾向児の算出については、平成18年度から現行の方法に変更されている。